

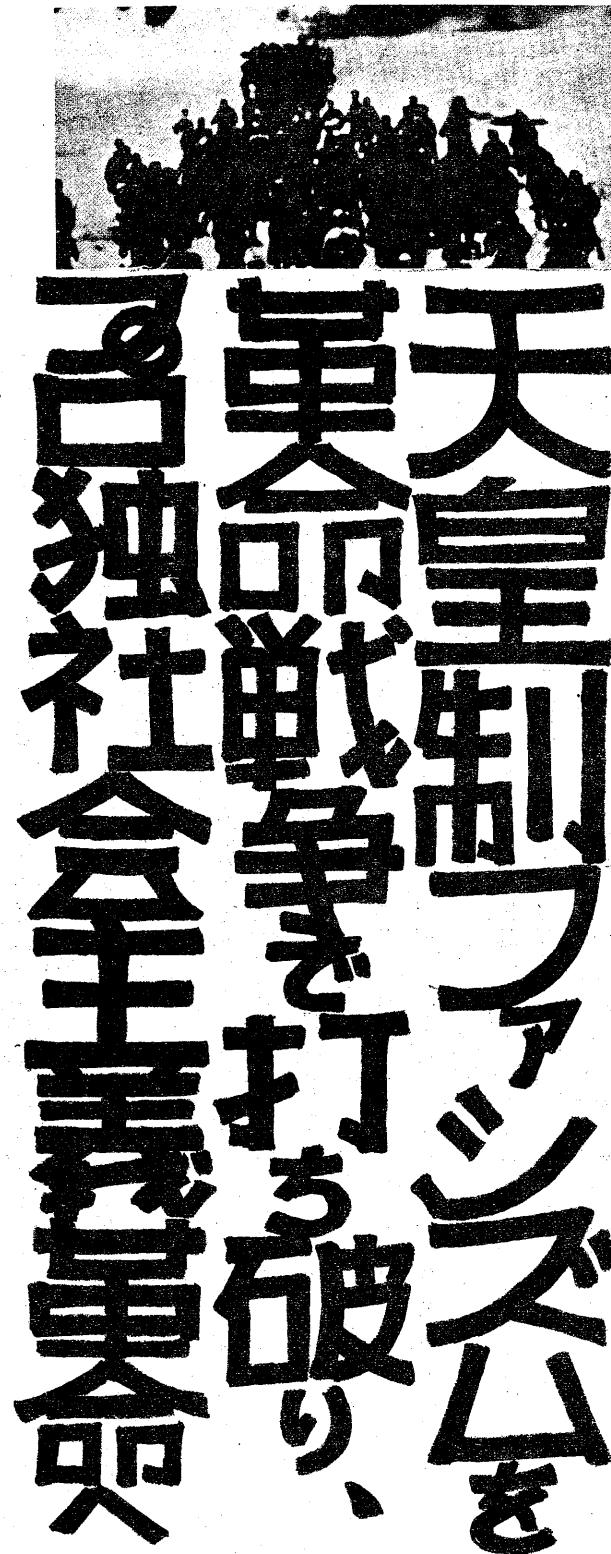
革命通信

76年11月15日

第9号

定価 100円

共产党主義者同盟
マルクス・レー・ニン主義
編集委員会



はじめに

同志諸君／読者諸君／我々は、いま9／26～10／31狭山最高裁決戦、10／3三里塚・岩山大鉄塔防衛決戦、11／10天皇在位50年「式典」爆碎斗争の全成果を武装して斗う非合法の創建の水路に流し込み、同盟と革命戦争の圧倒的前進を克ち取り、それを基礎に、「朝鮮」「狹山」「三里塚」を軸にした革命的宣伝・扇動戦を大胆に、更に大胆におしすすめ、革命的情勢に真向から応えんとしている。

同志諸君、全ての斗う労働者諸君／ブルジョア階級がブルジョア階級独裁の統治形態を天皇制ファシズムに転換しつつあることを見抜き、暴露しきり、天皇制ファシズムに対する誤った規定を批判しきり、天皇制ファシズムにプロレタリア階級独裁・社会主義革命を対置しきらねばならない。更に、「自民党政府打倒」を叫び、天皇制を頂点とする軍隊・警察・官僚機構の粉碎を曖昧化し、議会主義の尻押し役を演じてゐる日和見主義的傾向を批判しきり、プロ独・社会主義革命の第一の、もっとも基本的で、今日的な命題が国家機構の粉碎にあたることを承認せねばならない。この国家権力に対する斗争が革命戦争という戦術によつて発展すること、革命戦争で朝鮮侵略反革命と天皇制ファシズムを粉碎し、安保粉碎・白帝打倒、米帝追放、プロ独・社会主義革命に突き進むこと、プロ独・社会主義革命の革命戦争には武装して斗う非合法が必要であることを、はつきりと確認せねばならない。そして、日々の大衆運動の指導に党的任務を切りちぢめている大衆運動主義と革命的宣伝・扇動を放棄し、プロレタリア階級・人民からの召還をきめこみ、社会帝国主義・排外主義との対決を回避している召還主義を批判せねばならない。

我々は、こうした斗いの先頭に立ち、必ず、労・農・水・学の社

会主義統一戦線を結成し、赤軍を建設し、党一統一戦線一赤軍によ

る革命戦争でブルジョア階級独裁を打ち破り、國家権力を奪取し、

プロレタリア階級独裁を実現する。

同志諸君／全ての斗う労働者・人民諸君／同盟に結集し、革命的宣伝・扇動を貫徹し、革命戦争を準備せよ／ただちに配置につけ／

社会帝国主義・帝国主義は「ハリコの虎」であり、必ず打倒できる。

二の特徴は、第三世界の民族解放斗争が前進してゐること、第三の特徴は、西欧・日本に於いて社会主義革命が端的に始まつてゐること、第四の特徴は、社会主義諸国が、プロ独継続革命を推進し、革命の震源地として自己を打ち鍛えてゐることである。情勢の基本は、社会帝国主義・帝国主義が全面的崩壊にむかい、社会主義が全面的勝利にむかつてゐることである。一時の右からの巻き返して、非観したり、投降したりしてはならない。毛沢東は、一九四六年、

同志諸君／読者諸君／ベトナム・インドシナ民族民主革命の勝利の後、戦争と革命の一時期、激烈な階級斗争の一時代といふ素晴しい情勢が生起し、第三世界人民が、かかる情勢を徹底的に利用し、ソ連社会帝国主義の思惑を乗り超えて、前進し、アラブで、南アフリカで民族民主革命を爆発させ、勝利的局面を切り拓き、先進諸国社会主義革命に連動しはじめた瞬間、まさに瞬間に、帝国主義とソ連社会帝は右からの巻き返しの風を吹き始めた。しかし、右からの風は、一時的なものであり、以前に倍する革命斗争の爆発を不可避免にするものである。決戦長期に渡り吹くものではない。8／18板門店事件、タイの右派軍事クーデター、シリア主導下のレバノン「停戦」工作、奥平氏の逮捕と日高氏の虐殺、ローデシア民族解放斗争に対するキッシンジャー反革命「收拾」工作、国内に於ける赤報派に対する大弾圧などは、ソ連社会帝国主義・帝国主義による第三世界の民族解放斗争と社会主義革命への敵対・攻撃、予防、総じて右からの巻き返しである。

小ブルジョア急進民主主義派は、情勢の革命的要素ばかりを見ていた。ペトナム・インドシナ革命勝利後の国際階級斗争を一面的に表面的にみていた。その結果、内外の右からの巻き返しに驚き、一気に非観主義に転落し、一方での解党主義・大衆運動主義、他方での、召還主義に、深く、より深く埋没はじめた。他方、情勢に対し、戦争の要素だけを見る「毛沢東思想派」は「得たり」とばかりに膝を叩き、プロレタリア階級をブルジョア階級と和解させ、反ソ民族統一戦線の投降主義、社会帝国主義の道に引きずりこもうとしている。しかし、このいづれも誤つておらず、正しい情勢認識ではない。革命と戦争の二側面、二要素を対象化しない潮流、傾向は必ず「左」右の日和見主義・社会帝国主義に転落する。右の風が吹こうが、情勢の特徴や基本に変化があるわけではない。情勢の第一の特徴は、米ソ二大帝国主義の第三次大戦の危険が増大してゐること、第一

米帝軍と蔣介石軍の圧倒的包囲下にあって「すべての反動派はハリコの虎である。反動派は、見かけは恐ろしいが、実力はたかが知れている。長い眼で問題を見れば、真に強大な力を有するのは人民であつて、反動派ではない」と、いゝ切つてゐる。帝国主義の本質を見抜いたレーニンは、「ソヴェト権力の二ヶ年」の中で、帝国主義が「粘土の足をした巨人」であったと、指摘した。しかし、右から巻き返しを軽視してはならない。無視してはならない。「戦略的にはすべての敵を軽視せねばならぬ、戦術的にはすべての敵を重視せねばならぬ」ということ、すなわち、全体的には、敵を軽視せねばならず、個々の具体的な問題では敵を重視せねばならぬという原則をしっかりと握りしめなければならない。もし、戦略的に、敵を軽視しなければ、労働者階級は、日和主義の誤りを犯し革命の機会を喪失するだろう。労働者階級は、一時の風に混乱することなく、社会帝國主義・帝国主義の本質を見抜き、反霸權、反米反ソの下、安保粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独立・社会主義革命に奮進せねばならない。

塙見一派は、米ソ第三次大戦になれば、熱核戦争になり、地球はほろびると考え、戦争に絶望し、その結果、情勢を正しく認識できず、一面化し、革命の要素だけを見て、戦争の要素に目をつぶつてゐる。ここに、塙貝一派の日和見主義近代主義者ぶり、唯生産力、唯武器主義者ぶりが暴露している。毛沢東は、「パナマ人民の反米愛國の正義の斗争を支持する談話」の中で、「アメリカ帝国主義は、いたるところで思うがままにふるまい、自らを全世界の人民の敵対的地位においやり、自らをますます孤立化させてゐる。奴隸たることに甘んじない人民は、だれもアメリカ帝国主義のにぎる原爆や水爆に腰をぬかしたりはしない。……アメリカ帝国主義……に反対する人民の斗争は、必ず偉大な勝利を獲得することができる」と述べ、原爆や水爆では反帝民族斗争を虐殺できないことを指摘した。塙見一派は、原爆や水爆に「腰をぬかし」、前段階決戦という空文句の背後から、プロレタリア階級に「奴隸たることに甘んじよ」と強要しているのだ。日和主義・近代主義者は、人民の力、武器を使用する人の要素を軽視し、無視し、武器の優劣によつて、全てを判断しようとする。階級斗争は「ある階級の勝利とある階級の消滅」であり、プロレタリア階級は熱核戦争になるから、ブルジョア階級と和解する理由にはいかないのである。

日帝の危機と天皇制ファシズムへの転換

安保体制の下に従属的帝国主義として復活、発展、成熟した日本資本主義は、情勢の四大特徴と特殊的には①南朝鮮の民族民主主義革命と、②国内に於いて社会主義革命の情勢が端緒的に始まつたことに規定され、体制的危機に突入し、反動化し、朝鮮侵略反革命戦争を準備する、と同時に、統治形態を「象徴」天皇制を内在化した特殊な議会制民主主義から天皇制ファンズムに転換せんとしている。こうした中で、8・18板門店事件という日米帝の朝鮮侵略反革命戦争挑発攻撃、日米防衛協力委の発足をテコとした共同侵略反革命戦争作戦体制の構築と自衛隊の増強、ミグ25や北方領土問題をめぐる帝国主義排外主義の鼓吹、天皇在位50年「式典」攻撃、赤報派への大弾圧、などがわずかこの二ヶ月余に生起している。我々は、はつきり見抜かねばならない。ブルジョア階級がロックード事件を契機に、田中逮捕にふみきり、保守合同以降の「55年体制」という戦後ブルジョア支配体制を否定し、一気に、軍隊・警察・官僚機構の社会的地位の向上と肥大化を促し、これと天皇制を結びつけ、政府・議会の手枷・足枷をとり払い、むきだしの階級支配、反動と暗黒のブルジョア階級独裁体制の実現と朝鮮侵略反革命戦争に突き進んでいることを。

これまでのよう^にに生活し支配できなく^{つた}ことの具体的^なあらわれで^{ある}。見よ、ブルジョア階級自体の再編がロッキード事件をテコに^{急速に進んで}いることを。三木対反三木の自民党内抗争を見るまでもなく、動搖と混乱、地殻のヒビ割れがブルジョア階級の内部に起^{っている}。この間隙にそってプロレタリア階級は進出し、政治的活性力を蓄え、拡大している。まさしく革命的情勢の端緒期に突入しているのだ。だから、いま問題になっているのは、すべて革命的情勢^なわち、革命的情勢が端緒的に始まっていること、現存することを大衆に明らかにし、この情勢の広さと深さを説明し、プロレタリア階級の革命的自覚と革命的決意を呼びますことである。そして、プロレタリア階級をたすけて革命的行動にうつらせ、こういう方向にむかって活動するために革命的情勢に応する武装して斗う非合法党を創建することである。今日、「日共」・協会、革マルの社会帝^國主義集団に屈服し、革命的情勢の端緒期を否定し、「革命的情勢に応する組織をつくりだす」という義務（レーニン）を放棄する部分が共産主義運動の内部に発生しつつある。4トロに代表される傾向がそれである。彼等は、ロッキード事件を結節環とする権力再編、統治形態の転換、天皇の元首化と軍隊、警察・官僚機構の肥大化に目をつぶり、ブルジョア議会制民主主義の危機、三木対反三木の自民党内の政権争い、あるいは、自民党対社共、江・公・民の政権争いに目を奪われている。その結果、労働者階級の革命的攻撃力を民主主義斗争の枠におしこめ、プロ独・社会主義革命を永遠化し、日帝の朝鮮侵略反革命と戦争を承認することになる。社帝化してはいないが、天皇制ファシズムの役割、性格を曖昧にしてゐる為に、「左」右の日和見主義に陥り、不斷に動搖する部分も存在する。塙見一派と中核派がそうである。塙見一派は、天皇制ファシズムの二本足がファシズムと社会帝國主義である、と規定する。彼等には、ブルジョア階級の支柱として、一方に軍事的支柱の天皇制ファシズムがあり、他方に、「主要な社会的支柱」の社会帝國主義が有ることを理解できない。中核派は、天皇制ファシズムを天皇制ボナパルチズムと見てゐる。ボナパルチズムは絶対君主制の倒壊後あるいはその妥協的解消の一権力形態であり「ボナパルト的君主制の演ずる役割は、封建制とブルジョアジーとの斗争において絶対君主制の演ずる役割と類似している。」問題はここからだ。エンゲルスはいう、「しかし、封建制とブルジョアジーとの斗争が旧絶対君主制下においてのみ充分に展開されえたごとく（イギリス、一七八九年—一七九二年及び一八一五年—三〇年のフランス）ブルジョアジーとブルタリアート間の斗争はただ共和国下においてのみ究極まで戦われ得る。かくて恵まれたる諸条件と革命的前史がフランス人を助けてボナパルトの顛覆とブルジョア共和制の建設とを成就せしめたとすれば、フランス人は、半封建制とボナパルチズムの混合物の中におちこんでいるわがドイツと比較して、斗争を最後まで戦いぬく必要な形式を既に所有しているという利益を有している。……もしフランスに王制が復古されるようなことがあれば、ブルジョア共和制の再興ということがまたしても日程に上ることになるだろう。これに反して共和制が継続すれば、プロレタリアートとブルジョアジーとの間の、何らの被覆なき、直接の階級斗争が、日に増し、尖鋭化し、危機状態にまで達しうることを意味する。」つまり、ボナパルト的君主制に対しプロレタリア階級は、共和制の実現を掲げ、階級「斗争を最後まで戦いぬく必要なる形式」をかちとるのである。つまり中核派は、プロレタリア階級に共和制をかちとれ、といつていいのだ。絶対主義→ブルジョア革命→ボナパルチズム→ブルジョア民主主義→ファンズム→プロレタリア革命という法則が分かっていないのである。今日、塙見一派は「左」に、中核派は右にぶれる。ズムの打倒は、朝鮮革命に連帶する斗いであり、国際主義に基づくムへの統治形態の転換は、朝鮮侵略反革命に向けた「城内平和」体制をつくりだすことを目的にしているのだ。だから、天皇制ファシズムの打倒は、朝鮮革命に連帶する斗いであり、国際主義に基づく

正義の斗いである。

天皇制ファシズムの形態は、天皇がブルジョア階級の利害を代表して、政府に代わり、軍隊・警察・官僚機構を指揮することであり、その実体は、天皇制と結合した軍隊・警察官僚機構であり、本質は暗黒と反動のむきだしのブルジョア階級独裁である。

かかる天皇制ファシズムを頂点に、日帝は、ブルジョア階級支配を打ち固め、安保体制を強化し、朝鮮侵略反革命戦争に突き進もうとしているのである。

プロレタリア階級は権力を

奪取せねばならない。

同志諸君、日帝の天皇制ファシズム的統治形態への転換を目指した反動政策の一つ一つに反対していくれば、ブルジョア国家を打倒できること、と考えるのは誤りである。幾度、幾十度、幾百度民主主義斗争を組織しようが、権力斗争に発展しない。一十一の算術的量の問題ではない。階級斗争を経済斗争、民主主義斗争と見るばかりではなく、政治斗争として、また、國家権力を奪取するための斗争として見ることによって、民主主義斗争は、権力斗争に転嫁・発展する。だから、民主主義斗争の成果は、権力斗争の為に利用されねばならないのだ。日帝はブルジョア階級が統治形態を反動化し、天皇制ファシズムに転換し、國家権力に依拠して、「上からの内乱」攻撃を組織し、プロレタリア階級に流血と暗黒を強制しつつある今日、ブルレタリア階級は、農・水・学の社会主義統一戦線を組織し、人民を指導して権力を奪取する斗いを準備し、組織し、練り上げねばならない。天皇制ファシズムに、プロレタリア革命、プロレタリア階級独裁・社会主義革命で応えねばならない。ブルジョア階級独裁の維持か、プロレタリア階級独裁の暴力的実現か、一切が、この一点に集中している。プロレタリア階級は、民主主義斗争の全成果を権力奪取のために利用せねばならない。ブルジョア階級の反動的国家装置、機構を粉碎し、階級抑圧の暴力組織であり、階級抑圧の手段を集中している国家と国家権力を奪取せねばならない。天皇制ファシズムを粉碎し、経済的隸属からの解放を実現するためには「ブルレタリアートは政治権力を戦いとらねばならない。」「なぜなら、この政治権力はブルレタリアートを事態の支配者とし、その偉大な目標への途上にあるいっさいの障害を除去する可能性をこれにあたえるであろうからである。この意味で、プロレタリアートの独裁は社会革命の欠くことのできない政治的条件である。」

プロレタリア階級が権力を奪取し、社会の主人公になること。朝鮮人民と連帯し、自らを解放する道は、これ以外にない。レーニンは『戦術に関する手紙』の中で「革命」という概念の厳密に科学的な意義においても、その実践的・政治的な意義においても、國家権力が一つの階級の手から他の階級の手にうつることが、革命の第一の、主要な、基本的な標識である。」と、いい切った。そうだ。プロレタリア階級がブルジョア階級から国家権力を奪取することが、「革命の第一の、主要な、基本的な標識」なのだ。断然、プロレタリア階級は権力を奪取せねばならないのだ。

「日共」、協会、革マルの社会帝国主義集団や社帝化しつつある部分は、「日帝の危機など存在しない」とい、天皇制ファシズム的統治形態の転換と朝鮮侵略反革命戦争体制の現実に目をつぶり、プロレタリア階級に権力を奪取すべきないと説き聞わっている。彼等は、今日の情勢下で、「あらゆる革命の根本問題は国家権力の問題である」という命題を、いかに貫徹するのかという立場、觀点を欠落させている。だから、口先で、この命題を承認しているだけなのだ。実際に、国家権力の問題をあきらかにし、プロレタリア階級が権力を奪取するために、意識的に参加しなければならないのだ。つまり、彼等は、口先では、マルクス・レーニン主義、実際では、修正主義なのだ。

天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構を革命戦争で粉碎し、プロレタリア階級独裁を樹立せねばならない。

「革命の中心任務と最高形態は、武力で政権を奪取することであり、戦争で問題を解決することである。」（毛沢東）「歴史上今までかつて内乱をへずして成就した大革命は、ただの一度もないし、また眞面目なマルクス主義者で、内乱なしに資本主義から社会主義へうつることを考えたものは、ひとりもいなかつた」（レーニン）

ロシア10月革命、中国革命、ベトナム革命を見るまでもなく、偉大な革命は、全て「武力で政権を奪取」してきた。「日共」・社会党の修正主義、日和見主義政党は、暴力革命を否定し、平和的に社会主義が実現できるかの如く主張している。しかし、ブルジョア階級が平和的にプロレタリア階級に国家権力を手渡すはずがない。なぜなら、プロレタリア階級が国家権力を握れば、ブルジョア階級に対して全面的独裁をおこない、ブルジョア階級が存在することも、ふたたび発生できない条件をつくりだすからである。ロシア、中国、ベトナムで、ブルジョア階級は、権力を最後まで維持しようとした。歴史の法則は、「日共」、社会党の主張と反している。日本も例外ではない。

何故、天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構に、破壊力を集中し、粉碎せねばならないのか。それは、ブルジョア議会が選出した政府に代わって、天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構がブルジョア階級の利害を代表する、と同時に、国家権力の中核・実体であるからだ。レーニンは、『国家と革命』の中で、プロレタリア革命は「国家機構を粉碎し、打ちくだかなければならない」と、明確に提起し、「この結論は、マルクス主義の国家学説のなかで重要なもの、根本的なものである。」と、いききっている。プロレタリア革命は、できあいの国家機構を、完全なものにする革命ではない。できあいの国家機構を徹底的に、根本的に粉碎する革命である。なぜなら、プロレタリア革命とは、私的所有制をプロレタリア階級の共有制にかえ、社会主義が資本主義にとつてかわる革命であり、私的所有制のうえで発展し、「完全なもの」になり、ブルジョア階級の道具である国家機構を、プロレタリア階級がブルジョア階級の搾取階級にたいして独裁を行い、社会主義革命や社会主義建設をおこすための道具とすることは絶対にできないからだ。そうだ。天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構を徹底的に粉碎すべきなのだ。一切のプロレタリア的破壊力を国家権力に集中せねばならないのだ。「マルクス主義学説のなかで主要なもの、根本的」なこの結論、命題を忘れさつたのが「ブルジョアジーの従僕」を以て自認するところまで来た社会帝国主義集団である。4トロ、遠方派、前衛派などは、この命題をカウッキー流にまつこうから歪曲し、その主観図がどうあろうとも、彼等の客観的立場のせいで不可避免に「ブルジョアジーの従僕」となっている。一方、革命的情勢が端緒的に始まり拡大、発展する中で、「ブルジョアジーの打倒」労働者階級の独裁！」が決定的な問題になり、日帝の朝鮮侵略反革命戦争と天皇制ファシズムに「国内戦」（レーニン）を対置しきらねばならないときに、この歴史的任務にたえきれなくなり、ベルンシュタイン主義・カウッキー主義に屈服する新たな部分が発生しつつある。紅旗派を先頭にした「自民党政打倒」を叫ぶ諸君だ。彼等は、国家とは具体的な暴力の組織、軍隊・警察及び監獄等であることを忘れており、統治形態が異なれば、政府の国家に対する役割、地位が異なることを忘れている。国家と政府の階級的性格は根本において同一であるが、ブルジョア議会主義の場合、議会を通じて選出された政府は、直接にブルジョア階級の利害を代表し、国家の指

導部として限定された意味における相対的独立性と国家に対する種々の反作用を認める。ところが、ファシズムの場合は、議会が空洞化し、政府は国家に対する指導権を喪失し、形式上、名目的にブルジョア階級の利害を代表しているにすぎず、執行権力である軍隊・警察・官僚機構に逆規定される。いまや「自民党政打倒」のスローガンの誤りは明白である。第一の誤りは、マルクス主義の国家学説のなかで「主要なもの、根本的なもの」今日なものである「国家機構を粉碎し、新しい国家機構に代えることを曖昧にしているのだ。第二の誤りは、できるだけ国家機構を粉碎し、うちくだかなければならない」という命題を曖昧にしているのだ。

二の誤りは、できるだけ国家機構を粉碎し、うちくだき、新たに、プロレタリア的国家機構に代えることを曖昧にしているために、議会主義と徹底的に対決できず、客観的には天皇制ファシズムを隠すイチヂクの葉たる社「共」＝人民戦線政府を議会で選出する議会主義の尻押しになつていてことである。国家権力の実体を粉碎しきる立場、觀点を持たない限り、議会主義、修正主義を批判しきれない。

天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構を粉碎する斗争形態、戰術は、何であるか。一九一七年ロシア十月革命以後、偉大な革命の主要な斗争形態は戦争であった。中国革命、アルジエリア革命、キューバ革命、ベトナム革命等は、戦争を組織し、戦争に勝ちぬく中でプロレタリア階級と人民の解放を実現した。一九一七年以降の革命の全経験は、革命戦争が、プロレタリア暴力革命の普遍的な斗争形態、戦術であることを明らかにした。そして、ブンドが提起し、赤軍派が組織し、連合赤軍が発展させんとした革命戦争は、思想上の小ブル急進主義と組織路線の党一階級二元論的限界ゆえに改北

緊急斗争報告—11/10天皇在位50年「式典」爆碎斗争に決起す！

(1) 同志諸君、読者諸君！まず、第一に、11月10日、わが革命的部隊が、今秋「狹山」「三里塚」に於ける革命的宣伝、扇動隊が切り拓いた地平を踏まえ、天皇在位50年「式典」の決意も固く、早朝より決起し、労働者学生の先頭で警察・民間反革命の弾圧・攻撃をはねのけ、最後の最後まで戦斗的に斗い抜いたことを報告したい。

(2) 同志諸君、読者諸君！わが革命的部隊は、結集した全ての労働者・学生に向かって、天皇在位50年「式典」が天皇裕仁によるアジア侵略・反革命の50年を合理化する、と同時に、近代天皇制100年の歴史を正当化する攻撃であり、もって、天皇制ファシズムへの統治形態の転換を飛躍的におしすすめる一大反動、

攻撃であることをはつきり見ぬかねばならない」と述べ、ブルジョア階級がブルジョア階級独裁の統治形態を天皇制ファシズムに転換

しつつあることを暴露しきった。そして、天皇制ファシズムにプロ独・社会主義革命を対置しきらねばならないことを明らかにした。

(3) 更に、わが革命的部隊は、「自民党政打倒」を叫び、天皇を頂点とする軍隊・警察・官僚機構の粉碎を曖昧化し、議会主義・

右日和見主義・社会排外主義との対決を回避扇動を放棄し、プロレタリア階級からの召還をきめこみ、サークル化し、社会帝国主義・

農・水・学の社会主義統一戦線を結成し、赤軍を建設し、党一統一戦線－赤軍による革命

戦争によつてブルジョア階級独裁を打ち砕き国家権力を権取し、プロレタリア階級独裁を実現せよと、述べ、革命党、つまり、武装して

粉碎であると、のべ、それゆえ、この斗争が革命戦争にならざるをえないことを歴史的・主張して、労働者、学生の圧倒的支持をかちえたのである。

(4) 最後に、わが革命的部隊は、プロ独・社会主義の革命戦争には革命党が必要であること、しかも、武装して斗う非合法党が必要であることを徹底的に明らかにし、日々の大衆運動の指導に党的任務を切りぢらめぞいる大

したが、この歴史的法則を日本に適用せんとした偉大な斗争であった。ゆえにプロレタリア階級は、M・L主義を獲得して小ブル急進民主主義を清算し、党一階級一元論の立場を確立し、革命戦争を断固再開し、推進すべきなのだ。レーニンは、「被抑圧階級がもし武器を掌握し、またそれを獲得することを習得するよう努めないとばかりは、かれらは奴隸とみなされるほかあるまい」と指摘している。我々は「奴隸」とみなされてよいのか。経済的隸属の結果、政治的文化的にも隸属しているプロレタリア階級は「奴隸」とみなされたいのか。それがいやなら「武器を掌握し、またそれを獲得することを習得するよう努め」ねばならないのだ。日本の場合、中国やベトナムと異なり、ブルジョア階級が武器を独占し、軍事力を独占している、同時に、プロレタリア階級が思想的にも武装解除されること、更に、朝鮮侵略反革命戦争に向けた「城内平和」を目指し、ブルジョア階級が階級独裁の統治形態を天皇制ファシズムに転換し、「上からの内乱」を組織していくことに規定され、プロレタリア階級独裁の集中的表現である革命党のゲリラ戦から、まず革命戦争が始まることだ。

革命戦争を斗いぬき、プロレタリア独裁・社会主義革命を実現するの展開の中で統一戦線を打ち鍛え、軍事組織である赤軍を建設し、革命戦争を斗いぬき、プロレタリア独裁・社会主義革命を実現する始まるのだ。つまり、党と統一戦線から出発し、革命党のゲリラ戦

革命通信

斗争労働者・学生・人民の全国政治新聞「革命通信」を定期購読しよう！

暴いた連社帝と日本帝を保
体制の暗闇に、反米・反ソ・反
霸權の赤旗で対決せよ!

大川雷藏

第一章 労働者階級の直感に反米 反ソ反霸權の社会主義的イ テオロギーをそそぎこめ

同志諸君！耳をすまそう！労働者階級はさやき合い、考え方、つぶやき合っているなぜミグ25は俺達、労働者を毎日・毎日こを使い、押え付けてる日本に、資本家の牛耳っている日本など飛んできたのだろう？、「同じだ」と言ってたが、そんなにソ連には自由がないのだろうか？選挙の時にになると訪問してくる日共や社会党の運動員、それに反スターリン主義としていっしょくたにしたタをとねえる人達は、ソ連を一応、革命派、労働者の味方のようないつたり、ソ連も中国もスターリン主義としていっしょくたにしたりするが本当なのだろうか？ソ連のやりかたを見ているとどうも分からぬなあ…………。同志諸君！労働者階級の政治的直感に氣を

くばることは大切である、学ぶ価値がある。社会主義的イデオロギーを宣伝するきっかけもある。ミグ25亡命事件は広範な労働者階級人民にソ連という国について考えさせている。そして、労働者階級の多くはソ連の社会帝国主義としての、超大国としての、ファシズムとしての本質、つまりブルジョア階級独裁の気づきはじめている。

主義をめざし奮斗している革命的なわが同志諸君！我々共産主義者の任務は、この労働者階級の直感に拝跪することではない！この政治的直感を真向うから受けとめ、政治的暴露を開き、反米反ソ反霸権の社会主義的イデオロギー、党の綱領——戦略的総路線をそそぎこみ、労働者階級を政治教育し、打ち鍛え、党に結集させ、日本革命に勝利する労働者階級の前衛・武装して斗う非合法のマルクス・レーニン主義党を創建していくかねばならない。チャンスをのがすな！政治的暴露と革命的宣伝、扇動には大衆の直感というチャンスをのがさないことが重要である。我々はこうしたチャンスをのがさない。現場をとらえてはなさない政治的暴露と革命的宣伝、扇動を十分やりきれていいな。こうした政治的暴露と革命的宣伝・扇動の不充分性は必ず、革命的組織化、労働者階級のマルクス・レーニン主義党への結集、密集を阻害する。つまり戦術の不徹底は必ず、物質的に組織の不徹底として現われるのである。

しかし同志諸君！恋愛や入試・出世・宝クジなどのチャンスとちがつて、政治的暴露と革命的宣伝・扇動のチャンスは資本主義が存在しているかぎり無数にある。ブルジョア階級独裁が打倒されないかぎり、国際関係における帝国主義的略奪や侵略のための秘密の同盟、結託が存在するし、国内においてはブルジョア政府と野党の結託と謀議そして国会での学芸会と反動立法の成立、反動政策、警察の弾圧、環境破壊、農村破壊、公害、差別、値上げ、賃下げ、合理化、失業、工場内の奴隸制度等々、我々に政治的暴露と革命的宣伝・扇動をもちこむ義務が要求されている。そして、こうした資本主義の諸結果に対し、偉大な労働者階級人民はそれぞれ工場で、地区で、農村で反抗し、斗い、解放を求めているのである。こうした労働者階級人民の斗いの中に政治的暴露と革命的宣伝・扇動をもちこみ、しっかりと党に組織化し、「安保粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独立・社会主義革命にむけて戦略配置、戦術準備をなしとげ、革命戦争を斗つていかねばならないのである。

者階級の直感、自然発生性に拝跪してはならないのか？なぜなら、大衆が自然発生的に斗争に参加してきたり、社会への直感的疑問をいたいた時には、必ず帝国主義、社会帝国主義のあらゆる種類のデマゴーグが意識的に大衆の未発達の層をまとわしてくるからである。さらにはマルクス・レーニン主義党や労働組合、大衆組織の中からも無意識的に帝国主義、社会帝国主義のデマゴーグ、手先になる者があらわれ、「左」右の日和見主義をふりまくからである。

- 5 -

らゆる革命のものとも主要な問題は、疑いもなく、國家権力の問題である。権力がどの階級の手にあるかということ、これが全てを決定する」（レーニン）。日本の國家権力は日本のブルジョア階級と米国のブルジョア階級が連合して握っているのである。つまり、日帝と米帝の連合独裁である。

社を組織し、集団化、協同化して大型機械を用いて生産をあげ、資本主義に破壊された農業を回復し、食料を自給し、米帝の飢えの報復に食料輸出ストップに抗する原動力であるつまり、革命の勝利のためにも、革命後の社会主義建設のためにも労農同盟を中心とした社会主义統一戦線が必要なのである。

してきた場合、ソ連社帝に対する民族解放のために自國帝国主義＝日帝と連合することもありえる。それは、これまで主要な矛盾であった国内矛盾がソ連社帝の侵略によって副次的な矛盾になり、日本とソ連との民族矛盾が主要な矛盾になるからである。

一部の「毛沢東思想派」は自由帝国主義＝

義革命と米帝追放の民族解放の任務を同時的に遂行する一段階の革命に直面している。もし日帝が米帝の買弁資本なら民族解放から米帝の連合支配をうちやぶり、社会主義革命と民族解放をなしとげるためにプロレタリアテイニアト・社会主義革命階級独裁を樹立するのであり、日本の社会主義と真の独立を求める労働者階級人民はこの方向にそって前進していかねばならない。

労働者諸君！革命に生き、革命に死のう！

我々は日本革命の総路線「日米安保体制粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命」のために全力をつくす。だから自己を打ち鍛え、党に結集してほしい。あるいは斗争を支持・支援してほしい。将来の日本革命の指導者たる若き同志たち、綱領のために、戦術の遂行のために、まず組織を建設し、戦略配置と戦術準備をやりきつていこう！中央委員会の中央委員会指導と地区グループ、工場内下級委員会の党務・責任の地方分散化を原則とする中央委員会主義の職業革命家を中心にして、労働者階級の前衛、武装して斗う非合法のマルクス・レーニン主義党を建設していく先兵となろう。

援助するレベルだけにとどまつてはならないのです。労働者階級は農民の支援斗争ももちろん斗うが、それ以上にマルクス・レーニン主義党に結集し、自己の社会主義的任務、つまり、農民や都市プチブルを指導して、ブルジョア階級を打倒していくしかなければならないのです。農民は労働者階級が自己の社会主義的任務を果たすことを持つていて、労働者階級の社会主義的任務をおしとどめ、支援レベルにとどめておこうとするプチブル・ナクト・学生セクトが氾濫しているが労働者階級はこうした急進プチブルの本性を見抜き、決してだまされてはならないのです。労働者階級の同志諸君、再度確認しよう。ロシキード、ミグは日米安保体制を暴露したことと、そして「日米安保体制粉碎、日帝打倒、米帝放逐、プロ独、社会主義革命」のために、マルクス・レーニン主義党と社会主義統一戦線の陣型を構築せねばならないことを、導して、ブルジョア階級を打倒するためには、労働者階級は、農民や都市プチブルを指導して、ブルジョア階級を打倒するためには、マルクス・レーニン主義党に密集せねばならないことを！

これは将来の問題を現在にもちこむ修正主義、日和見主義であり、日帝への階級投降主義である。こうした自国帝国主義・日帝への階級投降主義は将来、米ソ第三次大戦が起り、ソ連社帝が日本を侵略してきた時に、ソ連社帝に対する日本人民の民族解放の主導権を必ずずブルジョア階級・日帝に渡してしまい、日帝の主導権の下に労働者階級をしばりつけてしまうのである。そしてソ連社帝の侵略と戦争を労働者、農民の軍隊・革命の軍隊である赤軍建設によって打ち勝つではなく、自衛隊と米軍の指揮のもとに労働者階級人民をしばりつけるのである。歴史がしめしているように侵略に対し労働者・農民の軍隊、革命の軍隊である赤軍こそがもともと頑強に斗えるのである。帝国主義軍隊などはあてにならない。結局、こうした階級投降主義は、ソ連社帝の侵略に対する民族解放戦争の勝利を危うくし、さらに民族解放の勝利から自国帝国主義打倒の社会主義革命へ連続的に発展させることを不可能にするのである。さらに、もとと悪いことには、こうした階級投降主義は必ず民族投降主義となり、米帝に頼りきつたり、米軍崇拜におちいつたりして米帝の手先に変質したりするのである。我々、労働者が階級が気をつけねばならないことは、日共がソ連社帝への民族投降主義になりつつあり、

第四章 階級投降主義と民族投降

主義を粉碎せよ！

さて、社会主義革命と社会主義建設のためには、労働者階級のマルクス・レーニン主義団結化、人民公社化を条件にして、社会主義統一戦線に組織していかねばならない。つまり、マルクス・レーニン主義党と社会主義統一戦線という陳型が要請されているのであるところで同志たち、朝鮮板門店事件とミグ25亡命事件は日帝をして、空海軍力の増強に拍車をかけることは必至である。安保体制下で日帝は天皇制ファシズム的統治形態への転換を強め、朝鮮侵略反革命戦争のために、ソ戦のために、新関西国際空港建設、三里塚空港開港に血の弾圧をもつて兇暴にむかってくることは必至である。我々は断々固として全力をあげて三里塚駆除をめざし、岩山大鉄塔を守って、斗わねばならない。三里塚の巨

ソ連社帝は亡命の事実を米・日のデッヂチー
ゲと主張し、「日本の指導層の行動は明らか
にソ連に対する非友好的なものであり、現在
および将来の両国関係に影響を与えるにはむ
かない」とおどしをかけている。実際、ソ連
社帝は、報復的に、日帝と日本人民の区別を
つけず、漁船をだ捕してきており、北方諸島
を北方諸民族の意志を無視して占領しつづけ
ること、侵略基地化にますます力をいれること
とに意志を強めている。帝国主義と人民の区
別もつけず報復的に漁船を捕したり、ビザの
写しがないとかナンクセをつけて日航乗員の
入国拒否をする態度はまさに超大国である
(真の社会主義国・中国は永遠に超大国にを
らしないといつてゐる！)
さてロッキードとミグに撃墜されてゐる當
我々が建設してきた日本をこのような連中
効者階級諸君、

ライとして「社会主義政府」を樹立する気持ももつてゐることである。社会主義協会も同一である。労働者階級は日共と協会派、そしてそれに付隨するトロツキストから決別したマルクス・レーニン主義党を創建せねば最後の勝利はない！

同志諸君！労働者階級諸君！毛沢東を見よ！毛沢東は階級投降主義と民族投降主義に反対して、日帝の中国侵略を粉碎し、中国革命を勝利に導びいた。日帝の侵略が始まる前、国民党の指揮、つまりブルジョアジーの指導か／共産党的指揮、つまりプロレタリアートの指導か／という問題に対しても毛沢東は断固として党内の階級投降主義を排し、国民党と断々固として斗うことによつて、共産党的指揮、つまりプロレタリアートの指導力を確立していられたのである。

村委員長は労農同盟が必要だ、といつてゐる
そうだ。全くそのとおりだ。労働者階級と農
節工、出かせぎ、飯場を初めとする貧農・中
農との労農同盟こそ社会主義統一戦線の中核
であり、赤軍の構成の中心でもある。さらに
労農同盟こそ安保体制を粉碎し、日帝を打倒
し、米帝を追放したあと中国のような人民公

の霸権争奪、利権争奪にまかしておいてよいか？よくはないと思うだって！それなら我々も反米反ソ反霸権を押し進めるためには徹底して、断固として、現在国家権力を握っている日帝、米帝と斗わねばならない。我々は将来、米ソ第三次大戦が起り、ソ連社帝が日本から米帝を追放し、日本を侵略、占領

こうした毛沢東の厳しい国民党との斗争、ソヴィエト、根拠地建設があってこそ、日帝の侵略が始まつても、それに抗して、断固として抗日民族統一戦線を結成し、国民党に指導権を奪われることなく、民族投降主義を粉碎し斗いぬくことができたのである。さらに抗日戦に勝利してからも米帝に応援された国

国民党を打倒し、中華人民共和国を創立することができたのである。ところが一部の「毛沢東思想派」は全たく、毛沢東思想に反していふ。「毛沢東思想派」の友人たち、二段階革命論を捨てて「反独占民主主義革命論」という修正主義を捨て、投降主義を捨てたまえ。「毛沢東思想派」の下部同志諸君、やはり、偉大な毛沢東のいうように「ブルジョア階級はほかならぬ党内にいる」のです。下部同志諸君、しっかり考えてほしい。

第五章 戦争に備えた宣伝・扇動

・組織化をすすめよ！

第五章 戦争に備えた宣伝・扇動 ・組織化をすすめよ！

わが同志たち！我々はこうした毛沢東と中國共産黨の斗いに深く学び、階級投降主義や民族投降主義の日和見主義に反対し、マルクス・レーニン主義・毛沢東思想の偉大な赤旗をかかげて、断々固として現在、「日米安保

卷之三

・J公半斗争支援・高原氏の保釈金カンバを訴えた

同志諸君！読者諸君に、わが支援委員会は、H・J公判斗争支援と高原氏の保釈金カンパを心から訴える。11月24日のH・J公判に、最大限結集し、高原氏の保釈問題を戦取し、もって最大限保釈金を集中し、高原氏の保釈を勝ちとり、H・J公判斗争に完全勝利せねばならない。以下は、『不死鳥作戦』に掲載された高原氏の文章の抜粋である。

労働者人民諸君、同志・友人諸君、救援戦線諸君！

私は、赤軍派のよど号ハイジャック共同謀議・共同正犯として、七〇年六月に、逮捕、起訴されました。以降現在まで東京拘置所に拘留されています。他に塩見君が共同謀議・共同正犯で起訴され、まだ拘留されており、川島君、上原君がほう助犯で起訴され、既に保釈になっています。

公判は、東京地方裁判所で、現在まだ第一

審が続いています。

(1) 公判斗争の第一の対決点は、共謀問題です。私も塙見君も、よど号ハイジャックを実行してゐる間に、日曜の午後、監視官は

実行しないことは明白であり、塙見君は
よど号ハイジャックの半月前の三月十五日に
逮捕されていました。にもかかわらず検事は
塙見逮捕の寺点で赤軍派では先て、明洋への

ハイジャックの方針が決定されていた。そして塩見逮捕後、この方針を高原が繼承し、もつて赤軍派がよど号ハイジャックを実行したとして、共同謀議・共同正犯で起訴した訳です。

この共同謀議・共同正犯は、刑法六〇条に実行犯の場合の規定があるだけで、非実行犯の場合は、この規定を解釈する形をとった裁判所の判例の集積という方法によつて創作されてきたのです。だから私と塙見の場合は、共同謀議・共同正犯の極限的な典型です。このことは、日本帝国主義が米日「韓」軍事体制を突破して朝鮮民主主義人民共和国に到達したよど号ハイジャックに対する階級的報復として、また七〇年安保斗争の中で革命斗争を武装斗争へ発展させようとした赤軍派に対する予防反革命として、我々を逮捕、起訴したことと示しています。

検事は、かつて赤軍派に属していて、よど号ハイジャックに関する逮捕され、不起訴で

H·J公判斗争支援委員會

ムの革共同に反対し、労働者階級の前衛、マ
ルクス・レーニン主義党創建のため、第三次
急進民主主義を清算し、第三次ブンドを結成
せよ！

革命的労働者階級諸君、ロッキーードとミグ
に挾撃された日本は、戦争と革命の暴風雨の
中に突っこもうとしている。日本革命、社会
主義・日本の未来はすべて君達の団結と戦斗
にかかる。戦争と革命の大暴風雨の前、
日本は不気味な静けさにおおわれてゐる。必
ず、「プロレタリア国際主義と組織された暴
力」の第二の10・8がくる！今度は先頭にた
つのは学生ではなく、君達、労働者である！
不気味な静けさの中、恐れず、全力で、死力
をつくし、わが党に結集し、戦略配置、戦術
準備につこう！鋼鉄の労働者階級は、社会主
義・共産主義のために進軍せよ！

と38度線を斜めに通つており、38度線は東側では南に属しており、北のピョンヤンは39度線上にあるのだから、ピョンヤンに行くためならば、39度線で西に向うべきであり、にもかかわらず①のコースを取つたということは、よど号の乗務員が元々南のソウルに行こうとしていたということです。②のようにしてよど号を「韓国」の金浦空港に着陸させたのは、米軍・自衛隊、「韓国」軍です。要するに福岡から金浦までよど号の運航を管理、支配して、よど号を3日間もの長期にわたつて金浦空港で封鎖してしまったのは赤軍派ではなく、米日韓

(3) 公判斗争の第3の対決点は保釈問題で
軍事体制、日本帝国主義があることが暴露された訳です。今後、検事は、よど号の乗客を証人に立ててきますが、同じことが暴露されるでしょう。

す。強盗傷害は7年以上無期まで、つまり短期1年以上の刑であるため刑事訴訟法上、権利保釈に該当しません。検事はこの点を利用して保釈を無条件に拒否し、長期の実刑を科し、永久に監獄に閉じ込めておこうとしており、裁判所はこれに加担している訳です。し

かし、刑事訴訟法上、不当に長期にわたる拘留であるならば、保釈しなければならないことをになっていきます。私の拘留は、既に6年を越え、7年目に入っています。公判中の被告は無罪と見なされるべきであり、たとえ有罪でも強盗傷害のように最低刑が非常に高い場

合、最低刑に近くするというのが法律上の常識です。この点からして私の拘留は、既に明らかに不當に長期にわたるものになつており、たゞも有罪でも、もう刑の殆んどは古敷りさ

れています。さらに常識的には刑は正犯の半分とされるほうア犯の川島君、上原君が、このよど号ハイジャックに関する拘留が3年半となつた時点で保釈を実現しているという事情もあります。問題は法律ではなく政治であり、力関係ですが、このように保釈要求斗争を強化し、力で押せば裁判所に不当に長期にわたる拘留であることを認めさせ、私の保釈を実現できる見通しが出てる訳です。

そこで諸君に公判斗争の支援と、極めて高額になると予想される保釈金のカンパをお願いする次第です。

連絡先
横浜中央郵便局私書箱
井上和美 132

毛沢東同志追悼

毛沢東思想万才!

マルクス・レーニン主義編集委員会

□ 毛沢東思想万才!!

(一) 毛沢東同志追悼

中国共産党中央委員会主席毛沢東同志は一九七六年9月9日逝去了。我々は深い悲しみをもって心から哀悼の意を表する。

毛沢東同志は中国共産党、中国人民解放軍、中華人民共和国の創建者、偉大な指導者である。同時に、國際共産主義運動の偉大な指導者である。

毛沢東同志は、中国の民主主義革命の時期においては、マルクス・レーニン主義の普遍的真理を中国革命の具体的実践と結合し、「左」右の日和見主義と斗い、新民主主義革命の路線を確立した。

そして、中国共産党と中国人民を指導して、労農同盟を結成し、革命戦争を闘い、帝国主義を追放し封建地主階級と買弁ブルジョア階級を打倒し人民連合独裁を樹立し偉大な勝利を実現した。

毛沢東同志は、中国の社会主义革命の時期においては、反革命修正主義と闘い、マルクス・レーニン主義を発展させ、プロレタリア階級独裁の下での継続革命の路線を確立した。そして、中国共産党と中国人民を指導して、プロレタリア文化大革命を発動し勝利させ深化発展させ、共産党内部に存在するブルジョア階級を打倒しプロレタリア階級独裁を堅持し、社会主義を打ち固め共産主義を目指す偉大な勝利を実現した。

毛沢東同志が指導した中国の民主主義革命と社会主義革命は被压抑民族の解放闘争に新しい道を切り開き、社会主義の革命闘争に新しい経験を提供した。そして、日本人民の革命闘争を、戦前の天皇制の下でも、戦後の米帝占領下でも、安保体制の下でも、常に鼓舞激励して来た。

毛沢東同志は、世界人民を指導して、米帝国主義に反対する闘争、国際共産主義における現代修正主義を批判する闘争、米帝国主義とソ連社会帝国主義に反対する闘争を起こし、世界プロレタリア共産主義革命の偉大な前進を実現した。

毛沢東同志が、中国人民、世界人民、日本人民のためになし遂げた功績は不滅であり、毛沢東同志は中国人民、世界人民、日本人民に限りなく心から敬愛されている。

毛沢東同志は現代最大のマルクス・レーニン主義者であり、毛沢東思想はマルクス・レーニン主義の現代的発展である。

毛沢東同志の逝去は中国人民にとって、また世界人民と日本人民にとって、巨大な損失である。だが、人民は巨大な悲しみを偉大な力に変え、毛沢東同志の遺志を受け継いで、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想に導かれて前進しなければならない。

中国共産党と中国人民は、必ず、階級闘争をカナメとしてプロレタリア階級独裁の下での継続革命を堅持し、社会主義革命と社会主義建設を推し進め、中国を世界革命の偉大な根拠地とするであろう。世界人民は、必ず、現代修正主義に反対し、帝国主義と社会帝国主義に対する、民族解放闘争と社会主義革命を前進させ、世界プロレタリア共産主義革命の偉大な勝利を実現するであろう。日本人民は必ず、マルクス・レーニン主義を創建し、安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独、社会主義革命に勝利し、世界革命に貢献しなければならない。

毛沢東同志は、中国人民、世界人民、日本人民の革命闘争の中に永遠に生き続けるであろう！

毛沢東思想の眼目は、①新民主主義革命論、②持久戦論、③実践論、矛盾論、④プロレタリア階級独裁の下での継続革命論である。

毛沢東同志の第一の眼目は、民主主義革命の時期における新民主主義革命論、つまり、人民民主主義革命論である。これは、マルクス・レーニン主義の永続革命論の継承である。

「この中国革命の第一段階（それはまた多くの小段階にわかれ）は、その社会的性質から云うと、新しい型のブルジョア民主主義革命であつて、まだ、プロレタリア社会主義革命ではないが、それはとくにプロレタリア社会主義世界革命の一部分となつております」

「まではなおさら、この世界革命の偉大な一部となり、この世界革命の偉大な同盟軍となつてゐる。この革命の第一步、第一段階は、けつして中国のブルジョア階級の独裁する資本主義社会を樹立するものではなく、また樹立できるものでもない。それは、中国のプロレタリア階級を指導階級とする中国の革命的諸階級の連合独裁の新民主主義社会を樹立するものであり、これによつて、この第一段階を終えるのである。それからさらに、これを第二段階に発展させて、中国の社会主義社会を樹立するのである」（『新民主主義論』）。

プロレタリア階級が指導する人民連合独裁・人民民主主義独裁とは、レーニンが提起した「プロレタリアートと農民の革命的民主主義的独裁」（『民主主義革命における社会民主党の二つの戦術』）である。

この人民民主主義革命はマルクス・レーニン主義の後進国、殖民地国の革命への適用である。その核心は、第一段階の民族解放、民主主義革命において、プロレタリア階級が、まず、農民と次に都市小ブルジョア階級と、さらに一定の程度で民族ブルジョア階級と同盟し、これを指導して革命の主導権を握り、帝国主義と自國の買弁ブルジョア階級および封建地主階級を打倒し、最小限綱領||民主主義的独裁を実行する人民連合独裁（人民民主主義独裁）として、民族的に独立した民主主義国家を樹立し革命を徹底してなすことである。こうしてこそ、次に貧農||半ブルジョアと同盟し中農||小ブルジョアと都市ブルジョア階級を引き付けて、この権力を、最大限的に第二段階の社会主義革命へ進むことができる。

毛沢東思想の第二の眼目は「持久戦について」において提起されている革命戦争の法則である。第三の眼目は『実践論』『矛盾論』で提起されている弁証法的唯物論である。

毛沢東思想の第四の眼目は、社会主義革命の時期におけるプロレタリア階級独裁の下での継続革命論である。これはマルクス・レーニン主義の発展である。

「社会主義社会は相当に長い歴史的段階である。この歴史的段階においては終始、階級、階級矛盾、階級闘争が存在し、社会主義と資本主義との二つの道の闘争が存在し、資本主義復活の危険性が存 在し帝国主義と社会帝国主義による転覆と侵略の脅威が存在する。これらの矛盾は、ただプロレタリア階級独裁のもとでの継続革命の理論と実践によってのみ解決することが出来る」（中国共産党の十回大会で決定された規約の前文）。

マルクスは『資本主義と共産主義社会との間には前者から後者への過渡期がある。この時期はプロレタリア階級の革命的独裁以外のものではありえない』（ゴーダ綱領批判）と提起した。レーニンは『資本主義から多数のさまざまな政治形態をもたらすをえないが、しかしそのさい本質は不可避的にただ一つプロレタリア独裁であろう』（國家と革命）と提起した。社会主義は、共産主義の低い段階であ

り、完全な共産主義ではなく資本主義の残存物があり、資本主義から共産主義への革命的転化、移行が完全に実現されていないのであるから、プロレタリア階級独裁が必要である。毛沢東思想はこのことを明確にした点で、マルクス・レーニン主義の発展である。

社会主義においては、生産関係の基礎となる第一の側面である生産段階の所有制の面では、共産主義革命が達成され社会による共有制が実現され階級は廃止されている。しかし、生産関係の第二の側面である生産における人と人の関係の面では、精神労働と肉体労働の矛盾などの社会的分業の矛盾が残存し、第三の側面である個人的消費資材の分配制の面でも能力に応じた労働、労働に応じた分配である。これらは資本主義の残存物、ブルジョアの権利であり、生産手段の所有制の面に反作用し、ブルジョア階級、資本主義を復活させる危険性があり、この点でプロレタリア階級とブルジョア階級の階級対立、階級闘争、社会主義と資本主義の二つの道をめぐる闘争が存在している。

だから、これに対してプロレタリア階級の階級闘争を推進し、プロレタリア階級独裁を堅持し、生産手段、所有制の面で社会による共有制を保持しなければならない。そしてこれを基礎として生産力の発展を促進し、生産においては人と人の関係の面や個人的消費資材の分配の面でも共産主義革命を継続し資本主義の残存物を消滅させ、精神労働と肉体労働の矛盾などの社会的分業の矛盾を消滅させ、精神労働と肉体労働の矛盾などの社会的分業の矛盾を消滅させ、精神労働と肉体労働の矛盾などをいかねばならない。プロレタリア階級独裁の堅持、共産主義革命の継続によってこそ、生産力の発展も促進でき労働を第一の欲求へ転化させ、能力に応じた労働、労働に応じた分配から能力に応じた労働、必要に応じた分配へ移行し共産主義の高い段階を実現できるのである。

さらに、社会主義においては上部構造の領域にブルジョアイデオロギーが残存し、ブルジョア階級が残存している。しかも、これは経済的土台の領域、社会主義の生産関係の生産における人と人の関係の面や個人的消費資材の分配制の面にある資本主義の残存物、ブルジョア的権利によって再生産されるのであり、ブルジョア階級独裁を復活させ、反作用によって、資本主義を復活させる危険性がある。これに対してプロレタリア階級独裁を堅持し、上部構造での共産主義革命を継続しブルジョアイデオロギーを批判し、ブルジョア階級を消滅させなければならない。

(二) マルクス・レーニン主義と日本革命を

結合しよう！

毛沢東思想の新民主主義革命論に関して確認すべきことは「マルクス・レーニン主義の普遍的真理と日本革命の具体的実践とを結びつけること、これを真剣になしとげざいすれば、日本革命の勝利は全く疑いない」。(毛沢東同志が一九六二年9月18日に労働者学習活動家訪中団を通じて日本人民に贈った題辞)といふことである。

現在の日本の国家権力は日米安保体制に基づく日本帝国主義と米帝国主義の連合支配である。これは、日米安保条約によって、日本の自衛隊が在日米軍と不可分に結合していることに集中的に表現されている。日本資本主義は高度に発達しており帝国主義である。

しかし、日本帝国主義は従属帝国主義である。つまり、敗戦帝国主義、二流帝国主義であり、また、日本のプロレタリア階級およびアジアの民族解放闘争と社会主義国に独立では対抗できないが故に、戦勝帝国主義、一流帝国主義である米帝国主義に従属的に同盟しているのである。

このことからして、当面する日本革命は民族解放を含む一段階の社会主義革命である。つまり、一方では日本帝国主義を打倒する社会主義革命であり、他方では米帝国主義を追放する民族解放であり、この両方が結合して同時に遂行されるのである。プロレタリア階級は、貧農¹半プロレタリアと同盟し、中農²小ブルジョア、都市小ブルジョア階級を引き付けて社会主義統一戦線を結成し、日米安保体制を粉碎し、日本帝国主義を打倒し、米帝国主義を追放し、プロレタリア階級独裁を樹立し、社会主義を建設しなければならない。

そして、世界革命の勝利、共産主義の実現を目指さなければならぬ。

日本の「毛沢東思想派」は現代修正主義の「共産党」と同じく、当面する日本革命を米帝と日本独占資本に対する人民民主主義革命

四 反帝・反社帝、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の路線を獲得しよう！

毛沢東思想のプロレタリア階級独裁の下での継続革命論に関する確認すべきことは、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の反帝、反社帝の路線である。

反帝、反社帝の第一の内容はプロレタリア階級独裁の下での継続革命に他ならない。現代修正主義が社会主義において、プロレタリア階級独裁を放棄し、生産力の発展だけによって共産主義の高い段階を実現しようとして、実際には、ブルジョア階級独裁、資本主義への変質転化を推し進めるのを批判することである。そして社会主義においても、プロレタリア階級独裁を堅持し、共産主義革命を継続することによって、共産主義の高い段階を実現することである。反帝、反修である。

反帝、反社帝の第二の内容は党建設である。「帝国主義の時代には、日和見主義との統一は不可能である」(レーニン『帝国主義論』)。「帝国主義との闘争は日和見主義にたいする闘争と不可分に結合されなければ、虚偽の空文句にすぎない」(同)ということである。つまり「労働貴族」「ブルジョアジーの主要な社会的支柱(軍事的支柱ではないが)」「労働運動内のブルジョアジーのまぎれもない手先」「資本家階級の労働代理人」(同フランス語とドイツ語版の序文)である日和見主義、修正主義、「口先きでの社会主義、実際の帝国主義」(レーニン『帝国主義と社会主義の分裂』)の社会帝国主義と闘争し、プロレタリア階級をマルクス・レーニン主義党に組織することである。

反帝、反社帝の第三の内容はソ連論である。ソ連は、スターリンの指導下で、プロレタリア階級独裁の社会主義となつたが、社会主義においてプロレタリア階級独裁を放棄したため、現代修正主義が登場し、ブルジョア階級独裁の資本主義への変質転化を推し進めた。現在は、ファシズム化、国家独占資本主義家しており、帝国主義である。社会帝国主義である。ソ連ではプロレタリア階級の社会主義革命をやり直さなければならないのである。

反帝、反社帝の第四の内容は世界革命戦略である。帝国主義と社会帝国主義に対する世界革命にとって、当面、一流超大帝国主義である、反革命世界戦略を持ち世界支配の霸権を争奪している。米帝と同一である。第二次にスターリン主義から袂別した党の建設を目指しているが、旧修正主義³社会民主主義の左派でしかないトロツキズムであるので、現代修正主義から袂別した、マルクス・レーニン主義党を建設することは出来ない。第三にソ連と中国に対して国家

社会の階級的性格を示せず、両者の差異を示せず、同一視し超階級的なスターリン主義の支配であるとしている。これは、プロレタリア階級独裁の社会主義である中国に対しては反動的な敵対であり、ブルジョア階級独裁の資本主義であるソ連に対しては、美化、弁護である。第四に中国とソ連に対して、共に、米帝に対する協調屈服と批判し、共に米帝に対する闘争を要求している。これは事実に反しており、米帝に対する霸権争奪を推進する社会帝国主義のソ連に対する支援、加担であり、ソ連社会帝に米帝をけしかけ、両者の矛盾を利用して世界革命を、推進する社会主義の中国に対する反動的敵

対である。

五 マルクス・レーニン主義の第三次ブンドを結成しよう！

我々は次の六つのスローガンを暫定綱領としている。これを基礎として、統一と團結を打ち固め、これを出発点として綱領論争をブンド系に持ち込み、マルクス・レーニン主義の思想路線によってブンド系を統合し、ブンドを再建し、第三次ブンドを結成しなければならない。

△ テロリズム、経済主義の急進民主主義を清算し、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命路線を獲得しよう！

つまり、マルクス・レーニン主義は共産主義と労働運動の結合である。一方で共産主義革命と小ブルジョアインテリゲンツアの個人的闘争ではなく、労働者階級の階級闘争、プロレタリア階級独裁で実現し、他方で、労働者階級の階級闘争を経済闘争、民主主義闘争にとどめるのではなく、プロレタリア階級独裁、共産主義革命まで发展させなければならない。

△ 反スタ・トロツキズムを批判し、反帝反社帝、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の路線を獲得しよう！

つまり、一国でプロレタリア階級独裁を樹立した後、社会主義を建設することは不可能ではなく可能であり、世界革命にとって不必要ではなく、必要である。社会主義においても共産主義を実現するためには、プロレタリア階級独裁と共産主義革命を堅持し、継続しなければならない。毛沢東思想はマルクス・レーニン主義の発展である。

△ 日米安保体制を粉碎し、日本帝国主義を打倒し、社会主義を建設し、社会主義を建設し、共産主義を実現しよう！

つまり、当面する日本革命は、安保体制に基づく日帝と米帝の連合支配に対する民族解放を含む社会主義革命である。

△ 「共産党」社会主協会、革マルなどの修正主義、社会帝国主義を打倒し、日本プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を創建しよう！

つまり、社会帝国主義は、第一に日本帝国主義との結合であり、第二にソ連社会帝国主義との結合である。党建設と階級形式を二元化し否定するのではなく一元化し、プロレタリア階級をマルクス・レーニン主義党に組織しなければならない。

△ プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を通じた指導の下、人民を結集して社会主義統一戦線を結成し赤軍を建設し革命政府を樹立しよう！

つまり、人民はプロレタリア階級が貧農＝半プロレタリアと同盟し小商品生産の集團化を条件に中農＝小ブルジョア、都市小ブルジョア階級を引き付ける社会主義統一戦線に結集されなければならぬ。赤軍と革命政府はこの統一戦線の機関である。

<VI> 米ソニ大帝国主義の霸権主義に反対し、社会主義国と共に、第三世界の民族解放闘争を支援しよう！

つまり、これは、第三世界の民族解放闘争を拡大し、西欧、日本の社会主義革命を開始し、米ソの第三次大戦に備えるという当面する世界革命戦略の中での日本革命の国際的任務である。

第一次ブンドは、綱領の実践的部分（日本帝国主義＝日本資本主義批判）について、反米、反独立人民民主主義革命から社会主義革命へである。現代修正主義の「共産党」から袂別し、日帝打倒、社会主義革命の政治路線を確立した。我々は基本的にこれを継承する。ただ一国社会主義と社会主義におけるプロレタリア階級独裁を否定するトロツキズムとも沢東思想を折衷していだ不十分さを克服しなければならない。それがスローガンIIIである。第二次ブンドは、綱領の歴史的部分（帝国主義批判）について、アジアの社会主義国、民族解放闘争に敵対するトロツキズムの革共同に反対し、アジアの社会主義国、民族解放闘争と結合して、日本の社会主義革命を推進する國際路線を確立した。我々は基本的にこれを継承する。ただ一国社会主義と社会主義におけるプロレタリア階級独裁を否定するトロツキズムとも沢東思想を折衷していだ不十分さを克服しなければならない。これがスローガンIIである。ブンドは綱領の原則的部分（資本主義批判）、つまり、思想路線について基本的に共産主義と労働運動の分離を反映する急進民主主義であり、一方でテロリズム、他方で経済主義となつた、これは清算し、マルクス・レーニン主義を獲得しなければならない。それがスローガンIである。このようにして、我々はマルクス・レーニン主義の第三次ブンドの結成を目指すのである。

マルクス・レーニン主義、毛沢東思想万才！

日本人民と中国人民の团结、世界人民の团结万才！
安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独、社会主義
革命万才！

社会帝国主義打倒、マルクス・レーニン主義党創建！

「我々の綱領草案と解説」

(付) <プロ革派> の急進民主主義を批判す

高原 浩之

価格 550円

「①我々は、現代修正主義に転落した『共産党』から決別し、トロツキズムの革共同に反対してきた共産主義同盟（ブンド）の一分派である。我々は、日本プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を創建し、アジアの社会主義国、民族解放闘争と結合して、日本革命、つまり、日本安保体制粉碎、日本帝国主義打倒、米帝国主義追放、プロレタリア階級独裁、社会主義革命を実行することを当面の目的とする……」

『草案』より』

自民党打倒のスロー・ガンは暴力革命を準備するか？議会主義に通じるか？

一レーニン『国家と革命』 を学習して—

現在革命的左翼の中でも、「自民党政府打倒」のスローガンが提出されてゐる。これは正しか? レーニン『国家と革命』を学習して検討しよう。

(一) どういう観点で検討しなければならないか?

機関であり、一階級が他の階級を抑圧する機関であり、「常備軍と警察とは國家権力の重要な力の道具」であり、③國家は支配階級が「被抑圧階級を擄取する道具」であると言つてゐる結論として、「ブルジョア国家の形態はさまざまであるが、その本質は一つである。これらの国家はみな、形態はどうあらうとも結局のところ、からならずブルジョアジー独裁なのである」と言つてゐます。そして、④「ブルジョア国家がプロレタリア国家、プロレタリアートの独裁と交替するのは『死滅』によつて不可能であり、それは通例、暴力革命によってのみ可能である」と言つてゐる。

「自民党政府打倒」のストーガンは暴力革命でブルジョア階級独裁を打倒し、プロレタリア階級独裁を樹立するのを準備するのか、どうかという観点で検討されなければならぬい。

官僚、軍事機構の前代未聞の成長を示している。いまや世界史は疑いもなく、一八五二年とは比較にならないほど大規模に國家権力を『破壊する』ために、プロレタリア革命の「力をことごとく集中する」ところえすんでいる」。

つまり、最後の封建制国家である絶対主義は、ブルジョア階級の台頭に対抗して、最大の領主である君主が、他の領主を没落させ、通常その下に分散していた軍隊、警察、官僚機構を自分の下に集中した中央集権的な国家権力である。しかし、これは貨幣經濟を全国化し、商品經濟のため統一した、国内市場を形成することによつて、資本の原始蓄積、封建制の没落、資本主義の形式を促進する結果をもたらしたのである。そして、ブルジョア革命によつて、ブルジョア階級が國家権力を握り、プロレタリア階級に対抗して、中央集権的な軍隊、警察、官僚機構を発展させ、完成し、強化したのである。ブルジョア国家、ブルジョア階級の統治形態は、通常ブルジョア民主主義であり、ブルジョア階級は、議会で選出した内閣を通じて、軍隊、警察、官僚機構を動かす。しかし、ブルジョア革命の直後、進出してきたプロレタリア階級を抑圧するため、執行権力を議会から独立させ、君主または大統領を通じて動かす。これがボナパルチズムである。こうして資本主義の安定した発展が実現されればブルジョア民主主義となる。しかし資本主義の帝国主義段階はプロレタリア社会主義革命の前夜である。ここでブルジョア階級は、プロレタリア階級への抑圧、社会主義革命に対する反革命のために、国家独占資本主義を経済的土台として、ブルジョア階級独裁の軍隊、警察、官僚機構を極度に肥大化させ、再び執行権力を議会から独立させ、君主または大統領を通じて動かす。これがファシズムである。こうして、プロレタリア階級は社会主義革命において、暴力革命で、ブルジョア階級独裁を打倒し、ブルタリア階級独裁を樹立する任務に直面するのである。

(四) 天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚機構粉碎！全人民の武装！

(四) 天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚機構粉碎！全人民の武装！

〔二〕 どのようにして、ブルジョア階級独裁の國家権力は発生し、発展し、完成し強化され、プロレタリア階級は暴力革命に直面するのか？

レーニンは、マルクスの『ルイボナバルトのブリコームール18日』を引用しながら、次のように言つてゐる。①「ブルジョア社会に特有な中央集權的国家権力は、色付主義の段

備軍である。」②「封建制度の没落以来、ヨーロッパが数多く経験した、すべてのブルジョア革命をつうじて、この官僚・軍事機構の発展・完成・強化がすすんでいる」。「革命的プロレタリアートにたいする弾圧を強め、弾圧機関、すなわちほかならぬこの国家機構を強化する」ブルジョア革命の「このようない成行きの結果、革命は、国家権力にたいして『破壊力をことごとく集中』せざるをえないようになり、国家機構を改善することではなくて、これを破壊し、廃絶することを任務とせざるをえないようになる」。③「だがとくに帝国主義——銀行資本の時代、巨大な資本主義的独占体制の時代、独占資本主義が国家独占資本主義へ成長転化する時代——は君主制の国々でも、もともと自由な共和制の国々でも、プロレタリアートにたいする弾圧の強化と関連して、國家権力の異常な強化、その

(三) 「自民党政 打倒」のスローガンは議会主義に通じる!

天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚
機構の粉碎！、全人民の武装である。

「ロッパが数多く経験した、すべてのブルジョア革命をつうじて、この官僚・軍事機構の発展・完成・強化がすんでいる」。「革命的ブルジョアートにたいする弾圧を強め、弾圧機関、すなわちほかならぬこの国家機構を強化する」。ブルジョア革命の「このようない成行きの結果、革命は、國家権力にたいして『破壊力をことごとく集中』せざるをえない

日本帝国主義のブルジョア階級独裁の統治形態は、今まで象徴天皇制の下での議会制ブルジョア民主主義であった。ブルジョア階級は、小ブルジョア階級を結束した公然たるブルジョア政党である自民党と、プロレタリア階級をだましている隠然たるブルジョア政党である野党とで構成される議会で選出される

ようになり、國家機構を改善することはなくて、これを破壊し、廢絶することを任務とせざるをえないようになる」。③「だがとく

に帝国主義——銀行資本の時代、巨大な資本主義的独占体制の時代、独占資本主義が国家化と関連して、国家権力の異常な強化、その独占資本主義へ成長転化する時代——は君主制の国々でも、もともと自由な共和制の国々でも、プロレタリアートにたいする弾圧の強化

日本帝國主義のブルジョア階級独裁の統治形態は、今まで象徴天皇制の下での議会制ブルジョア民主主義であった。ブルジョア階級は、小ブルジョア階級を結束した公然たるブルジョア政党である自民党と、プロレタリア階級をだましている隠然たるブルジョア政党である野党とで構成される議会で選出される自民党内閣を通じて、執行権力を動かしてきた。しかし、今や体制的危機が深化し、プロレタリア階級と人民の闘争が激しく発展し、小ブルジョア階級が離反して自民党的議会での過半数が不可能になり、野党がプロレタリア階級をだまして議会につなぎとめることができなくなりつつある。そこで、ブルジョア階級は天皇制を前面化し、軍隊、警察、官僚機構を肥大化し両者を結合し、執行権力を議會

ブルジョア階級独裁の軍隊、警察、官僚機構を極度に肥大化させ、再び執行権力を議会から独立させ、君主または大統領を通じて動かす。これがファシズムである。こうして、プロレタリア階級は社会主義革命において、暴力革命で、ブルジョア階級独裁を打倒し、プロレタリア階級独裁を樹立する任務に直面するのである。

リ亞階級を引き付けて社会主義統一戦線を結成し、この人民の武装によって、ブルジョア階級独裁の天皇制ファシズム、天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚機構を粉碎し、この武装した人民で構成されるプロレタリア階級独裁の国家権力を樹立しなければならぬな。

(三) 「自民党政 打倒」のスローガンは議会主義に通じる!

天皇を頂点とする軍隊、警察、官僚
機構の粉碎！、全人民の武装である。

日本帝國主義のブルジョア階級獨裁の統治形態は、今まで象徴天皇制の下での議会制ブルジョア民主主義であった。ブルジョア階級は、小ブルジョア階級を結束した公然たるブルジョア政党である民主党と、プロレタリア階級をだましている隠然たるブルジョア政党である野党とで構成される議会で選出される

自民党内閣を通じて、執行権力を動かしてきました。しかし、今や体制的危機が深化し、グローバリゼーションと人民の闘争が激しく発展し、

小ブルジョア階級が離反して自民党的議会での過半数か不可能になり、野党がプロレタリア階級をだまして議会につなぎとめることができなくなりつつある。そこで、ブルジョア階級は天皇制を前面化し、軍隊、警察、官僚機構を肥大化し両者を結合し、執行権力を議